



## LED捕虫器への移行をオススメします

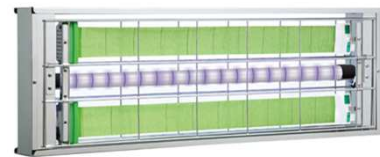


図1：LED捕虫器（ムシボンMP-L2000）

梅雨が明け、暑さも増してきました。夏から秋にかけて、まだまだ虫が多い時期が続きます。防虫対策もしっかりしていきましょう。

今回紹介するのは「LED捕虫器」です。最近では身の回りでも照明がどんどんLED化されていますが、どのような背景があるかご存じでしょうか。実は「水銀に関する水俣条約」の第5回締約国会議（2023年）で、蛍光灯の製造と輸出入をその種類に応じて2026年末または2027年末までに禁止することが国際的に合意されました。そのため、多くの照明器具メーカーが生産を終了し、LED化の波が押し寄せてきている状況です。捕虫器に使用される誘虫ランプは現在この規制の対象外ですが、器具部材の問題から、今後LEDへの移行が必要になってくると予想されています。

LED捕虫器に切り替えるにあたり、LEDランプと蛍光灯がどう違うのかは気になるところかと思えます。まず、虫の誘引力に差はほとんどありません。LEDは紫外線を出さないイメージがある方は意外に思われるかもしれませんが、虫の好む波長（375nm付近）を集中的に出すことで高い誘虫性能を実現しています。それでいて、省エネかつ長寿命（蛍光灯の約6倍）なため、ランプの

	LEDランプ	蛍光灯
虫の誘引力	◎	◎
寿命	30,000時間	5,000時間
消費電力	16W	20W
ガラス・水銀	不使用	使用
価格	高	低

交換頻度を3年に1回程度まで少なくすることができます。さらに、部材にガラスや水銀が使われていないこともLEDランプの特徴です。そのため、自治体によりますが、蛍光灯とは異なり不燃ごみとして廃棄ができます（廃棄コストの削減）。また、LEDランプは樹脂製のため、落下による破損が起こりにくく、破片の飛散による異物混入リスクが低いという利点があります。以上のようにLED捕虫器には価格面での不利以上のメリットがたくさんあります。

弊社では捕虫器の販売以外にも、捕虫器の設置工事や、選定・設置のアドバイスなども行っています。LED捕虫器に限らず、捕虫器に関するお悩みがある、または現在購入を検討中といった場合はぜひ一度ご相談ください。

## 今月の豆知識

## 気になるLEDのランニングコスト

LED捕虫器の購入を検討する際に、そのランニングコストは非常に気になる場所だと思います。今回の豆知識ではその点についてもう少しご説明します。

図2は電気代や購入、廃棄の費用を考慮した各ランプのランニングコストになります。LEDランプの破損・飛散のしにくさを考慮して、蛍光灯（飛散防止）との比較を行うと「3年間のランニングコストに差はほとんどない」という結果になりました。LEDランプ自体は確かに高コストですが、省エネ・長寿命の点でLEDランプに大きく軍配が挙がった形です。

ランニングコストは今後の蛍光灯市場縮小とLED市場拡大や、電気代・廃棄費用の値上げなどにより、LEDがコスト面で有利になっていくと予想されます。

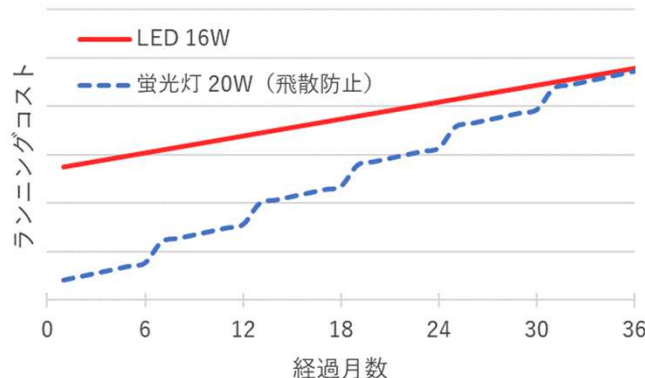


図2：20形誘虫ランプ（LED・蛍光灯）のランニングコスト比較  
【条件】交換頻度：LED（3年に1回）、蛍光灯（半年に1回）  
電気代単価（1kWh単価：25円、24時間点灯）  
：LED（290円/月）、蛍光灯（360円/月）  
廃棄単価：LED（0円/本）、蛍光灯（100円/本）  
購入単価：当社定価（2024年7月時点）